

2 私はこうして「日本を

◆ 多様な任務



南西防衛の要となる
部隊での勤務

勤務訓練における部隊指揮の様子 (筆者は右)

これからも、駐屯地の開設と同時に日本全国から集まった仲間たちと共に、「八重山に励みて国安らかなり」を合言葉に、国防の使命を果たせるよう日々努力していきます。

私は、2023年3月に新たに開設した石垣駐屯地(沖縄県)に所在する八重山警備隊の普通科中隊長として勤務しています。

那覇から約400km離れた八重山諸島の中心地である石垣島は、宮古島や与那国島と並び、厳しさを増す安全保障環境を最前線で感じる離島防衛の要となる島です。このため、石垣駐屯地には八重山警備隊の他にも地対空誘導弾部隊や地対艦誘導弾部隊が配置され、平素からこれらの部隊と協力してあらゆる事態に対処できるよう活動しています。



駐屯地開設時の防衛大臣儀仗 (筆者は左)

3等陸佐 大城 孝徳

- ① 八重山警備隊普通科中隊長 (石垣駐屯地)
- ② 普通科

海自は、尖閣諸島を含む日本の周辺海域などにおいて24時間態勢で警戒監視を実施しており、私の護衛艦「まきなみ」乗艦後の初めての任務が、その警戒監視でした。中国艦艇などに対応することで常に緊張していたことが強く印象に残っています。



操縦室で勤務中の様子 (筆者は手前)

3等海尉 西田 沙季

- ① 護衛艦「まきなみ」(大湊)
- ② 機関士

私は機関士として、艦のエンジンや電力などの状況をモニター、管理しています。さらに、任務中に監視に必要な情報を記録する必要があり、私はその記録収集の指揮を任せられました。

任務を通じて、我々が直面する厳しさを増す安全保障環境を肌で感じ、身が引き締まるとともに、国防に貢献しているという「やりがい」と「自分の成長」を強く感じました。今後も、このやりがいのある仕事に邁進し、成長していきたいと思っています。

尖閣周辺などでの警戒監視における私の任務



情報を記録する様子 (筆者は右)

対領空侵犯措置における心構え



F-2Aの離陸のための準備をする筆者

空の現場は、国家の意思と能力が示される最前線であることを自覚し、強い責任感と緊張感をもって、厳正かつ毅然とした態度でこれからも任務に邁進していきたいと思っています。

私はF-2戦闘機の操縦者として、対領空侵犯措置に従事しています。

対領空侵犯措置では、日本周辺を飛行する外国の航空機のうち、許可なくわが国の領空に侵入するおそれのある航空機などに対して、戦闘機などを緊急発進(スクランブル)させて対処を行います。近年は無人機への対処も行っており、緊急発進回数は年間1,000回に近い高い水準で推移しています。

パイロットはスクランブルが下令されたならば速やかに戦闘機を発進させ、領空侵犯のおそれのある航空機の状況を直接確認し、その行動を監視します。



F-2Aと筆者

2等空尉 水越 美紗貴

- ① 第8航空団飛行群第8飛行隊 (築城基地)
- ② 操縦